

STEP-UP

平成30年度 第1号 9月
大田区立幼児教育センター
幼児教育担当 TEL(5744)1618

4月に入園、入学、進級してから5か月が経ち、子どもたちは新しい環境で大人や友達との関わりの中で様々な経験や体験を積み重ね、一段と成長した姿を園や学校で見せてくれていることでしょう。

さて、今号では、3月に行われたスタートカリキュラム研修会、小学校での1年生の1学期の様子、4月から7月に実施された研修会についてお知らせします。

スタートカリキュラム研修会では、保幼小連携教育研究所所長 和田信行先生をお迎えし「幼稚園、保育園の遊びを通して育った力・学びを小学校にどうつなげていくか、またスタートカリキュラムをどのように作成していくか」のテーマで講義を聞いた後、作成例を参考にしながら、グループごとに入学翌日から4週間（ゴールデンウィーク前後）のカリキュラムを作成しました。

作成例

研修生作成のワークシート

【ワークシート作成で話合ったこと・グループ発表】

- ・学校の状況や行事の予定も違うので情報交換しながらすすめた。
- ・手遊びなどの活動を取り入れるようにしている。また、学校での生活の仕方(例:トイレの使い方)、学校探検も取り入れ、興味関心がもてるように1週目のカリキュラムに組み込むようにしている。

1年生の1学期の様子と先生の指導や配慮

入学まもない1年生は、すぐに45分授業ですすめるのではなく、児童の姿に合わせてトイレや水飲みの時間を設けたり、15分ごとに授業をすすめたりなど、無理なく取り組めるように時間的な配慮がなされています。また、園生活で慣れ親しんだ手遊びや絵本の読み聞かせなどを取り入れながら、担任の先生の話に集中できるようにしたり、大型の算数ブロックや電子黒板などを活用したり、見やすく分かりやすい工夫も随所に見られていました。

学習が始まると、学びに向かう基本である椅子に座る姿勢、机の上の道具の置き方等も、繰り返していく中で身に付けていきます。教室には、見てすぐ分かる表示の工夫がされており、絵や表を見ながら、自分から進んで行動に移すことができるようになってきました。

園生活で経験した給食当番などの活動は、小学校では当番や係活動、そして朝の会の進行など、様々な役割への取り組みとなり、その仕事の内容や進め方を班やグループで話し合いをしてすすめていました。栽培、飼育等では、観察カードに日々の成長を絵と文で記録する表現からは、幼児期の経験や豊かな感性との繋がりが感じとれます。



6年生と一緒に掃除



正しい鉛筆の持ち方



電子黒板を見て書き写します

1学期に行われた交流活動の様子です。4月に改訂された、幼稚園教育要領等の中に「円滑な接続のためには、幼児と児童の交流の機会を設け、連携を図ることが大切である」と明記されています。各園と小学校間が交流をきっかけにして連絡を取り合う中で、計画的に行っていくことが望まれます。



ハンカチ落とし



折り紙コーナー

【幼児期運動指導（運動遊び指導）リーダー保育者養成研修会】

4月25日・5月30日・6月27日の3回継続研修

【講師】 特定非営利活動法人 運動保育士会 運動指導員 柴崎 裕貴先生

○講義と実技研修とも、『運動遊びは技術習得が目的ではなく、運動遊びを子どもたちに好きになってもらう、体を動かすことを好きになってもらうよう取り組む中で、必要な力（懸垂力・支持力・跳躍力）が付き、気付いたら逆上がりや側転といった運動ができるようになっていたということを目指しています。』ということで運動遊びの効用などの理論や、運動遊びのアレンジの仕方、補助の仕方、年齢や発達レベルに合う運動遊び、集団遊びなどについてご紹介いただき実際に運動に取り組みました。

<意見 または 印象に残っている事>

- ・学校へ行くと [できる] [できない] になり、園で運動好きにさせても、体育が嫌いになると聞くので、幼児期には体を動かすことを楽しんでほしいと思う。「できないから、やりたくない。」という子どもに「できた！」という喜びを伝えたい。
- ・「分からなかった」、「知識が未熟だった」という補助の仕方が分かり、より安全に補助が行えると感じる。
- ・0歳～2歳（触れ合い遊びなど）から幼児（集団遊びと作戦会議など）、配慮を必要とする子どもまでと、幅広く運動遊びについて知ることができた。



【幼稚園教諭・保育士合同研修会】

第1回 5月16日

【自発的な遊びや生活の中で培われる環境との関わり】

【講師】 松蔭大学 コミュニケーション文化学部

子ども学科 教授 永井 由利子先生

○講演では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」からは総合的な育ちが分かると共に、ねらいの立て方では先ず「SEE(実態の把握)」そしてP・D・C・Aという話もありました。

○演習：「保育者として どのような言葉をかけますか」ということで、身近に起こる子どもの様子・状況の事例数点の中から2点を選んでグループでの話し合いを行いました。

<意見 または 印象に残っている事>

- ・【SEE】子どもをよく見て、興味、関心、実態の把握。そして【PLAN】・【DO】・【CHECK】・【ACTION】となること（⇒S・P・D・C・Aのサイクルで展開される）。
- ・一人一人の気持ちを汲んで子どもたちに考えさせること、育ちに合わせて言葉かけを考えることが大事。
- ・5歳児クラスの保育の中で、集団で行動できるよう指示が多くなっていないかと感じていたので『指示を少なくすることの大切さ』が勉強になりました。



第2回 6月20日

【遊びの中から子供の学びを見とる力】

【講師】 國學院大学 人間開発学部

子ども支援学科 教授 神長 美津子先生

○講演では、なぜ「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」があるのか、その経緯も含めどのような活動をしていくかの話の後、「子どもの遊びを読み取る力」を踏まえ、何が育っているか、小学校へどのように伝えるかなど話がありました。

○演習：DVD「5歳児 みさきちゃんを追って—わすれてできる?—ともだちとせんせいのくらしづくり—」を視聴後、【協同】【伝え合い】を視点にワークシートへ日誌・保育記録を書き、各机の3人の中で交換して読み合うことを行いました。

<意見 または 印象に残っている事>

- ・【知識・技能よりも人間性が大切】ということに改めて感じ、同時に保育に活かしたいと思います。
- ・【「10の姿」は18歳頃まで見通すこと。途中経過として小学校につなげることで良い。】の話に安心でき、遊びを通していろいろな経験ができる環境を整えたい。
- ・記録の読み合いでは、観点がそれぞれで違いがあり勉強になった。



第3回 7月11日

【様々な素材に親しむ中で豊かな創造力を育む活動】

【講師】 群馬大学 教育学部 美術教育講座 美術教育専修 准教授 郡司 明子先生

○まず、体をほぐす運動をした後、近くの研修参加者で2人組になり【新聞紙の可能性】について意見を出し合い、さらにまた近くの2人組と一緒に、話し合った意見を交換しました。この4人組で持参した材料を使って想像・表現・製作活動に取り組みました。

<意見 または 印象に残っている事>

- ・新聞紙の可能性について、様々な視点から考えることで、多種多様な活動になること（例えば、新聞紙になりきって体で動きを表現する）、様々なアイデアを出し合い、発表し合い、創造性を豊かにした。
- ・共に表現することで、初めて出会った先生方と、気持ちが一つになっていくことを実感する。チームで行うことで、コミュニケーションが取れ、協力する力もつくと感じた。
- ・『表出は、読み取り（受け手の存在が大事）によって表現となる』という話。